

授業科目名 (英文名)	災害リスクマネジメント (専門関連 科目)	科目区分 対象学生	
単位数	2.0	開講年次・ 学期	3年次・前期
担当教員	紅谷 昇平	所属	防災教育研究センター
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	<p>自然災害、人為災害や重大事故などの様々なリスクに対して、自治体や企業はとるべき対策を事前に検討し、準備や軽減策を講じておかなければならない。</p> <p>本講義では、まずリスクの基礎的な概念や災害リスクの種類、大きさについて理解する。その後、講義や演習を通じて、企業・自治体等の組織における、災害の影響を軽減するための実践的なリスクマネジメントの手法（リスクの同定、分析、評価、対応、等）やリスクを正しく理解し伝える手法（リスクコミュニケーション）を身に付けることを目的とする。</p>		
講義内容・授業計画	<p>・講義内容</p> <p>リスクについては、多くの分野で様々な定義が用いられているが、本講義では、主に経済学・経営学分野でのリスクの概念を採用する。講義では、まずリスクに関する基本的な考え方を学んだ後、災害・事故のリスクの種類や大きさについて学ぶ。その後、ISO31000、ISO22301などのリスクマネジメント・危機管理等の枠組みに基づいて、実際の災害リスクマネジメントのプロセスや具体的な対策・計画等について、実際の事例を交えながら学んでいく。</p> <p>・授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：用語と基本的枠組み 2. リスクの基本概念：確率としてのリスクの考え方 3. リスクコミュニケーション 4. リスクの認識 5. リスクマネジメントの枠組み 6. 災害リスクマネジメントの実際(1) (組織状況の把握) 7. 災害リスクマネジメントの実際(2) (リスクの明確化、分析、評価) 8. 災害リスクマネジメントの実際(3) (リスク対応) 9. 災害リスクマネジメントの実際(4) (モニタリング) 10. 産業被害の特徴とBCM (事業継続マネジメント) 11. 中間レポートの講評 12. ケーススタディ(1) 13. ケーススタディ(2) 14. 災害リスクマネジメント演習 15. まとめと確認テスト 		
テキスト	講義内で資料を配付する。		
参考文献	<p>本講義の参考となる読みやすい文献として、以下のものをお勧めします。</p> <p>中谷内一也「リスクのモノサシ」日本放送協会 ゲルト・ギーゲレンツァー (吉田利子訳) 「リスク・リテラシーが身につく統計的思考法」早川書房 西澤真理子「リスクコミュニケーション」エネルギーフォーラム新書 石井至「リスクのしくみ」東洋経済新報社 東京海上日動リスクコンサルティング「企業の地震リスクマネジメント入門」日科技連 リスクマネジメント規格活用検討会「ISO31000：2009リスクマネジメント 解説と適用ガイド」日本規格協会</p>		
成績評価の基準・方法	中間レポート (30%)、確認テスト (50%)、授業への貢献 (20%) を基準として、総合的に評価する。		

履修上の注意・履修要件	HAT神戸・人と防災未来センター内の「防災教育研究センター」（神戸市中央区）で開講するため、履修に関して充分気をつけること。
実践的教育	該当しない
備考	リスクについては、各分野で様々な定義が用いられるが、本講義では、主に災害による経済的な損失を防ぐために、災害前に取り組むべき対策・活動を中心に上げる。 。